

コンテンヤマ 權殿山 河北郡清水谷の部落南方に在る山。高さ二二四米。地質第三紀層。

コンドウイチザエモン 近藤市左衛門 慶安二年前田利常に仕へて四百石を領した。四代八右衛門貞享二年自殺して家断絶した。

コンドウカイ 近藤甲斐 父は大和長廣。慶長十六年前田利長の遺書の宛名中に近藤掃部とあるものも是であらう。十九年大坂の役に大聖寺城の留守を勤め、祿一萬千七百石を領した。その子善右衛門、後に又甲斐といひ、三千石を受けて富山侯前田利次の臣となつた。

コンドウシロエモン 近藤四郎右衛門 書寫役から組外に列して三十俵六人扶持を受け、寶曆元年能美郡代官となり、三年七十二歳を以て歿した。

コンドウチユウノジヨウ 近藤忠之丞 天保九年近藤忠之丞といふ者、山本孫三郎を斬つて父の仇を報じた。忠之丞は藩の割場附足輕で三十二歳、孫三郎は馬廻組山本治太夫守明の弟で、明倫堂の讀師を勤め、三十六歳であつた。忠之丞の父雲田忠太夫は、もと藩士多賀豫一右衛門の同心であつたが、能く財を蓄へ、遂に知行二千石を領する藤田左衛門安定の給人となり、傍ら私財の利殖を業として居た。是を以て孫三郎の兄治太夫は忠太夫から借銀をしてゐたが、その銀談のことに就いて、天保四年十二月廿九日夜孫三郎は忠太夫を訪ひ、共に忠太夫が銀主と稱する笠市町越中屋長兵衛の家に行つて門前に待つて居た

たとの理由で、孫三郎は何等罪を得ることなかつた。忠太夫の嫡子に近藤忠之丞といふものがあつたが、身長五尺八寸、臂力衆に超え、窃かに報復の志を抱き、江戸で劍を湯島天神前の井上傳兵衛に學び、金澤では關堂忠左衛門及び垣本佐五右衛門に就き、専ら時機を待つた。孫三郎は之を知らぬのではなかつたが、亦技を武藤金太郎に習うて練達の譽があつたから、毫も警戒の色がなかつた。然るに九年五月十三日は學校の式日で、職員皆早朝に出勤する例であつたので、忠之丞は孫三郎が宗半町の家を出て高岡町に至るを認め、追跡して之と闘ひ、その首級を堀川智覺寺なる亡父の墓に捧げ、郊端大樋口から二俣往來を経て出奔した。或はいふ。復仇の日、佐賢といふ者笠を被りて孫三郎に追隨し、木源は孫三郎が高岡町に來た時、之を岐路に待つて居た忠之丞に報じた。忠之丞出で、孫三郎と闘ひ、先づその鬚を研つたが、孫三郎も忠之丞の腕に傷つけ、動もすれば却つて危かつた。佐賢因つて之を助け、孫三郎の右手指を斬つた。是を以て忠之丞は本望を達し、智覺寺より淺野川を涉つて大樋町に至り、叔父竹屋六兵衛の扶助によつて衣服を改め、二俣往來より飛驒に出で、江戸の師井上傳兵衛の保護によつて生計を營んだと。この説は垣本佐五右衛門の口授だといふから信を措き得べく、その佐賢は佐五右衛門賢英で、木源は鈴木信左衛門永固の初名を探つたものらしい。永固また後に諱を行と改めたが、實は關堂忠左衛門の子で、劍法を能くした。

コンドウチユウノジヨウ 近藤忠之丞 仇討一件 小冊子に過ぎぬが、藩末の志士瀨尾紹元が垣本佐五右衛門からの聞書だといふから、最も信すべき史料と見られる。

コンドウナガヒロ 近藤長廣 通稱善右衛門、後大和。越前府中に於いて前田利家に仕へ、天正十二年末森城の後巻に従ひ、慶長十年十一月大聖寺の城代となり、十六年歿。祿一萬千石。子孫一は富山侯の臣となり、一は長く加賀藩に仕へた。

コンドウナホツク 近藤直次 通稱治右衛門。松平治右衛門一戒の次子。氏を改めて父の致仕後三百五十石を領し、能州宇津引越御用を勤め、寛文四年歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

コンドウノブナリ 近藤信成 通稱岩五郎。兵作信行の二子。肥前長崎へ勤學のため藩から派遣せられてゐた間に、慶應二年九月十三日夜、薩州藩士石神良平が宿所前に加賀藩を罵詈したのを怒り、追うて之を殺し、後薩藩の交渉を受けて割腹した。時に年二十二。因つて藩は信成が士道を失はなかつたことを賞し、父信行に百石を加増し、三男斤四郎に新知百五十石を給した。

コンドウノブキ 近藤信行 通稱兵作。本組與力近藤瀨左衛門の嗣子であつた。寛政十二年に生まれ、弘化四年父の後を襲ぎ、祿百八十石を受け、頭並に班し、勝手方に補せられた。信行最も財政に長ずるを以て、年寄長連弘を輔けて計畫する所あつたが、安政元年連弘の罷められた時信行も亦黜けられ、文久三年再び頭並に班して藩政に參與し、慶應二年十月その子信成のことに因つて祿百石を増し、明治三年九月退老して後名を翁と改

め、六年十一月十一日歿した。享年七十七。近藤兵作雜抄の著がある。兵作また關流の算學を中野續從に受けて、新規矩齋と號し、明倫堂の師範となり、文政九年には石黒信由著算學鈞致下巻の解義を草し、天保三年には轉寫之解を作り、明治元年には關孝和編開法麟變の解釋を完うし、その他約術解・算題三十好再解・觀音院奉納算法解術及批判等の稿があつた。

コンドウマサキヨ 近藤理清 加藤藩の士。父は新左衛門光保。秩祿千四百石。參勤の際古流生花家元關本理恩に就いて學び、遂に五代家元職を繼承して松盛齋と號した。明治十九年二月七十歳を以て歿した。

コンドウムイチ 近藤無市 亦無市之助に作る。天正中佐久間盛政に仕へ、廿一歳の時柳ヶ瀬の役に出陣し、敵將中川清秀を仆して殊功を立てた。後前田利常に仕へて金の番取衆となり、五百石を受けた。歿年不詳。子久米助、一に無市之助といふ。襲封の命なくして江戸に往き、後豊後岡の城主中川佐渡守久恒に仕へた。

コンドウモロタカ 近藤師高 ↓シラヤマシユトノゴウソ ↓白山衆徒の嘔訴。
コンドウモロツネ 近藤師經 ↓シラヤマシユトノゴウソ ↓白山衆徒の嘔訴。
コンドウユキミチ 近藤幸兌 通稱作右衛門。御算用場の吏であつた。文政四年同志が本多利明の碑を河北郡傳燈寺境内に建てた時、幸兌亦その一人であつた。

コンドウリトウ 近藤李東 石川郡淵上の十村役。通稱は源五郎。李東農を業としてゐたに拘らず俳諧蹴鞠を翫んだから、遂に藩